

血管外科と心臓大血管外科開設

室蘭市知利別町の製鉄記念室蘭病院（松木高雪病院長）は、「心臓血管外科」を分科し、新たに「血管外科」と「心臓大血管外科」を開設した。

心臓大血管外科の科長には、旭川医科大学から赤坂伸之医師（54）が着任した。分科によって、心臓や血管の分野で、より専門性の高い医療の提供を目指す。

同病院は1995年（平成7年）に心臓血管外科を開設。西胆振管内の基幹病院として、心臓・大血管、末梢血管、静脈、リンパなど、多様な疾患の診療を進めてきた。ここ数年、西胆振管内でも、先天性や後天性の心臓疾患、胸部大動脈

瘤、大動脈解離などの患者が増加。診療体制をより一層、充実させるため、今月から血管外科と心臓大血管外科に分科した。

赤坂医師着任 診療体制 一層充実

製鉄室蘭病院

赤坂医師は、心臓外科（後天性心疾患）、大血管外科が専門。日本外科学会外科専門医・外科指導医、日本心臓外科学会

専門医。旭川医大では心臓外科長として、年間100例以上の心臓大血管外科疾患手術の執刀・指導に携わったほか、救命救急センターの副センター長として、救命や高度集中医療にも携わった。心臓大血管外科の疾患では、札幌などに通院する人も多いため、患者負担が増大する部分もあったという。赤坂医師は「これまでの経験を生かして、西胆振地域が必要とする医療に微力を尽くしたい」と抱負を話している。

同じく新たに開設した血管外科の科長には、前心臓血管外科長の大谷則史副院長が就任。こちらでは、腹部大動脈瘤や動脈閉塞性疾患、静脈リンパ疾患などを担当する。

同病院は「血管外科・心臓大血管外科と循環器内科が一体となって、西胆振管内唯一となる」24時間体制で、全ての心臓大血管・血管疾患に対応できる病院』の役割を果たしたい」としている。

（松岡秀宜）



製鉄記念室蘭病院の心臓大血管外科長に就任し、抱負を話す赤坂医師